

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年2月13日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4676500087
法人名	医療法人 たからべ会
事業所名	グループホーム たからべ
所在地	鹿児島県曾於市財部町下財部1318番地9 (電話) 0986-72-1677
自己評価作成日	令和元年12月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和2年1月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①開設15年目に入り利用者の方も高齢化し、又新規の方も比較的高齢の方が多い為医療との連携が重要であるが、母体が医療法人であるので連携がスムーズに行われている。
- ②スタッフ全員が正職員で、離職者が少なく入居者とのなじみの関係が良好に保たれている。
- ③県道2号線沿いにあるが、閑静な住宅街で周りが他の建物や樹木で囲まれたようになっているため風当りが弱く、高台でもある為水害の恐れもありません。
- ④職員の資格取得に対して協力的に推進している。
- ⑤スタッフ間の人間関係が良好で楽しく働いている為、ケアに良い影響を与えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、散歩や外気浴で地域の人々とふれあいながら生活できる環境である。
- ・母体医療機関との24時間医療連携体制が整っており、定期的受診と職員看護師の健康管理との連携も図り、緊急時の対応などに適切な医療が受けられるよう支援している。
- ・地域とは、馴染みの理美容室を利用したり、毎月住職による法話、学童保育児との交流、認知症に関する相談や情報提供を行うなど、日常的に地域と交流している。
- ・管理者は職員が働きやすい環境作りに配慮し、研修等への出席も奨励している。職員間のコミュニケーションも良く、離職者も少ない。
- ・しりとりゲームやかるた取り・トランプ・ぬり絵など、その人らしく残存能力を大切に生活ができるように支援している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	ミーティングにおける確認。朝の申し送り前に唱和するようにしている。	理念は、玄関や事業所内に掲げ、申し送り時に唱和して振り返り、ミーティング等で確認し、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	裏の駐車場へ散歩、日光浴等で近隣の方との挨拶等行っている。町の願成寺副住職様が法話に来て下さり、心落ち着く話をしてくださる。隣の幼稚園児が時々遊びに来てくれる。近隣の美容室にカットをお願いしている。	散歩や外気浴・近所の美容室に出かけたりして、挨拶や会話を楽しんでいる。幼稚園児や学童保育児との交流、ボランティアの受け入れなども行っている。月1回、住職の法話もある。家族からの差し入れもあり、地域と日常的に交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	ボランティアや見学の申し出があれば受けるようにしているが近年申し出がない。曾於市認知症ホームの会で認知症カフェを設置し地域に情報発信を行いそれに参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の方々の日々の生活状況をお話ししたり、質問等を受けたりしている。また参加の方々の住まいの地域での高齢化、限界集落の状況等のお話を伺ったりし、市役所よりのお知らせ等もうかがっている。	会議は定期的に行っている。事業所の状況やヒヤリハット・事故報告・外部評価結果報告などを行い、意見交換をしている。会議での情報を職員で共有してサービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	曾於市認知症ホームの会にメンバーとして毎回参加している。上述しているが認知症カフェのメンバーとして協力している。	市担当者には、窓口に出向き、事業所の実情や取り組みを伝え、連携を深めアドバイスをもらっている。市主催の研修会や市認知症ホームの会にも毎回参加している。運営推進会議を通して協力関係もできている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ホーム横が県道で交通量が多く危険なので玄関は夜間のみ施錠している。開設以来拘束実施の具体例はありません	身体拘束廃止委員会でマニュアルに沿って毎月、勉強会を実施している。事例検討などで職員の共通認識を図り、言葉による拘束や声かけなど、日々配慮している。日中の玄関の施錠はせず、外出しそうな様子を察知したら、職員間の連携で安全な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム横が県道で交通量が多く危険なので玄関は夜間のみ施錠している。開設以来拘束実施の具体例はありません		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	ミーティングにおいて日常生活自立支援事業や成年後見制度をテーマに上げ知識を得たいと思う。現在該当する方はいない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には二人以上の職員により、説明漏れ等無いよう、また疑問点の質問などしやすい雰囲気作りに努めている。説明した書類はお渡しして、後日の質問も受けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の方が面会、入金等で来所されたときストレートに、あるいはそれとなく要望、意見等聞き出し皆で情報を共有できるよう努めている。玄関に意見を伺う意見箱を設置している。毎月のお便りでも気付いた点などお知らせいただく様お願いしている。	利用者からは日々の生活の中で意見や要望を聞いて対応している。家族からは面会や近況報告、請求書を兼ねた「ご家族の皆様へ」のお便りを送付しての返信、運営推進会議が意見を聞く良い機会となっている。出された意見や要望を職員で話し合い運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者が常時ホームにいますので、何かあればその都度上げてもらう。すぐにできるものであれば、即実行している。	管理者は職員とのコミュニケーションを図り、ミーティングや職員会議等で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また個人面談で意見を聞いてアドバイスもしている。職員の提案を検討して、職場環境の整備やケアの統一に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人であるため給与水準、労働時間は変更できないが、日々の勤務に関しては柔軟に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部からの研修案内に対しては、テーマ毎の希望、あるいは順番に均等に研修に参加できるように配慮している。たからべ会での研修への参加も呼びかけがある。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>前述の「曾於市認知症ホームの会」あるいは市全体での研修会で情報交換したりしている。研修会帰りとかに他施設を訪問することがある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に至る過程で家族、担当ケアマネ、サービス事業所等より入手した情報を元に本人の要望等に耳を傾けながら不安を抱かないよう語りかけ安心してもらえるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が話しにくい事柄でも過去の類似事例、対応事例を挙げながら丁寧に密に連絡を取り合い不安を解消していく事に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としているサービスは継続し不可能であれば代替のものはないか本人家族と話し合い検討をする。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に洗濯物をたたんだりお茶の葉のバック詰め、もやしのひげ根とり等、できる作業は声かけながら和やかにやっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への連絡、報告の際には季節の話題や最近の本人の状況等を交え情報を共有し本人を支えていく努力をしている。面会時の前後に最近の状況、エピソードなどあれば伝え会話する。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	旧知の友人、集落の方等面会に来てくださる方には謝意を表し次回に繋がるようにしている。ただ時間の経過、認知の進行に伴いそれらも薄れる傾向にある。	馴染みの友人知人の訪問の際にはお茶を飲んだりする。希望で馴染みの美容院利用や買い物の支援、手紙、電話の取次ぎなども行って、継続的關係が途切れないよう働きかけている。家族の協力で外出や外食、墓参の際にも支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性の強さがぶつかる事もあるので早めに察知しクッション役を果たす。物理的な位置関係も考慮する。その為にホールの改装も実施しました。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在まで退居された方は他施設（特老）あるいは入院であり、折にふれ見舞って近況を伺ったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望、意向に添えるよう努めている。意思表示が難しい方は生活歴や家族からの情報を参考にしている。	入居時のアセスメントを参考に、入浴や夜勤など日々の関わりの中で、言葉や表情などから思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族とも相談し、利用者の視点に立って職員で話し合い、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居のとき家族やこれまで関わってこられた方々から情報提供していただき記録している。入居後落ち着いた頃に時期を見て希望を聞いてみる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	決まった流れの中で違和感ある言動等感じたら、要チェックとする。定時のバイタルチェックを行い記録し情報共有を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見・意向を取り入れミーティングの際職員の意見交換をし、計画を作成している。	本人、家族の意向を確認し、主治医の意見や職員のアセスメントをもとに担当者会議で話し合い、個々に応じた介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月ごとに実施し、6ヶ月毎に見直している。状況が変化した時は現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の健康状態、バイタルは記録し共有はできている。ケアに対し気づいた点、工夫が必要になったときはカンファレンスやミーティングなどで検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のその時々ニーズがあれば、柔軟な対応ができるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や曾於市財部地区多職種連携の会、曾於市認知症ホームの会等の研修に参加し情報交換に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診と緊急時の受診、入院対応等スムーズにできている。	かかりつけ医は本人や家族の希望で協力医療機関が主治医となっている。受診は職員で対応している。他科受診は、家族の協力を得て支援している。24時間医療連携体制が築かれ、職員看護師との連携も図られ、緊急時の対応などに適切な医療を受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	何かあれば職場内の看護職員に報告し相談している。かかりつけ医に定期的に受診し相談もできている。			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院の際は病院や家族と頻回に連絡を取り情報交換できている。			
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	本人の状態を家族に説明しかかりつけ医と相談しながら情報を共有している。	契約時に重度化や終末期に伴う対応の指針を説明し、同意を得ている。状況変化に伴い本人や家族の意向を随時確認し、医師を交えて話し合い、事業所で出来ることを説明し、家族と方向性を共有できるよう取り組んでいる。職員はミーティング等で対応の勉強会を行っている。		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	もしものときに備えてミーティングの時対応の方法について話し合っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難訓練や消火訓練を実施し、近隣の方にも万ーの場合の協力をお願いしてある。</p>	<p>消防署立会いのもとで年1回、自主で年1回の昼夜想定避難訓練を実施している。母体医療機関での消火訓練にも参加している。スプリンクラーや緊急通報装置も設置され、定期的に設備等の点検も行っている。近隣住民には、協力を依頼している。水、米、カップラーメン、カセットコンロなどの備蓄もある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各入居者に合わせた声かけ対応をし周りに気を配っている。	マニュアルに沿って勉強会を実施し、職員の資質向上に取り組んでいる。入室や入浴介助・トイレ誘導などでは羞恥心に対する配慮を行っている。日頃から誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活での会話の中から本人の思いや考えを把握し寄り添えるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れがあるが、希望があれば、対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	季節感のある服の中から本人の好みの服を選んで着てもらっている。寒い時期必要以上に着込むこともあるので適切なアドバイスを行う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使うことを心がけている。その時々で行事食を提供したり好みを聞いてメニューに取り入れるよう努めている。食後の食器もお盆に集めてもらっている。	嗜好に配慮し、差し入れや旬の食材で、個々に応じた食事形態を工夫した献立である。片付けや台拭き・干し大根作りなど職員と一緒にしたりもする。注文寿司を持参しての花見やラーメンの出前、誕生会、季節の行事食など、食事が楽しみなものになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態が違う人が複数人いるので、配膳時混乱しないようお盆に一人分をセットしスムーズに提供できるようにしている。水分摂取量のチェックも行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い義歯の場合週2回消毒、洗浄している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各入居者の排泄パターンを把握しトイレ声かけ誘導を行っている。	一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。必要に応じての声かけや見守り、確認することでトイレでの排泄や排泄の自立を支援している。夜間にポータブルトイレを使用している利用者もいる。オムツからリハビリパンツに改善された事例もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分の摂取量チェックを行いレクで体操など取り入れるよう努めている。排尿排便チェックも行い主治医の指示のもと緩下剤での調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	既定の入浴日課があるが、希望があればそれにとらわれず、柔軟な対応に心がける。	基本的には週2回、午前中になっているが、個々人の体調や希望にそって柔軟に対応している。ゆず湯や入浴剤も利用し、必要時にシャワー浴や足浴、清拭も行い入浴を楽しめるように支援している。脱衣室も温度管理している。入浴を拒む利用者には声かけや時間調整など職員間で連携して、状況改善に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動と休息がバランスよく取れるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬、服薬管理は全職員で行っている。薬の変更があればその後の状態の変化にも気をつけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>気分転換に園庭に散歩に出かける。単純なボール遊び等おおぜいが参加でき、声も出せて盛り上がるゲームを取り入れている。各自のお誕生会、年間の行事食等楽しみにされている様である。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>季節の移り変わりを感じてもらおうと近辺へのドライブを提案し、希望があれば実施している。又病院受診の帰り道コースを変えたりしていつもと違う風景を楽しんでもらう。</p>	<p>日常的には周辺の散歩や外気浴、希望で浜辺へのドライブに出かけている。受診の際にドライブもしている。計画を立てて花見やこいのぼり見物に出かけたりしている。家族の協力で外泊や外出・外食・墓参などに出かけている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>大きな金額はホームで預かり本人希望のものがあれば、そのお小遣いより購入している。現在の入居者では所持希望の方はいらっしゃらない。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族に電話をかけたいと要求があればそのように計っている。家族より電話あれば取り次いでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には長椅子を置き、会話のできる空間になっている。又玄関や食堂では季節を感じるように、写真や季節の物を飾っている。冬場は日光浴でにぎわっている。	共用の空間は広々として、採光や換気・温度・湿度に配慮し清潔である。「ギャラリーたからべ」のコーナーがあり、利用者の作品や行事の写真が展示している。花など季節感を大事にした飾りもある。テラスでお茶を飲んだり、ソファで居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂ではテレビを囲み、時代劇を見たり新聞や、チラシを見て過ごしている。気の合った同士は談話を楽しまれている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた箆笥や棚を置きベッドも本人の希望を聞き動きやすい位置に移動し、居心地良く過ごせるようにしている。病院・施設から来られる方は既成品の利用が多い。	居室はエアコン・ベッド・寝具・クローゼットが備え付けである。テレビや椅子・テーブル・時計・仏壇・位牌・遺影・家族の写真など、安心して過ごせるよう配慮している。和室の部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自室は分かるように表札をつけたり目印をつけたり本人が作ったものを飾ったりしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない